



アクセラレータを備えた並列計算機 のためのプログラミング言語 XcalableACC

村井均 理研 AICS

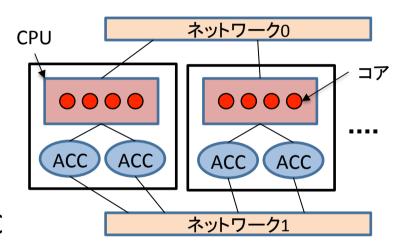
はじめに(1)



- アクセラレータ・クラスタ(e.g. GPUクラスタ)の 普及
 - TOP500のトップ10のうち4つ
- MPI+CUDAによるプログラミングが主流。
 - 生産性の問題(難しい)
- 指示文ベースのアクセラレータ向けプログラミングモデルOpenACC
 - → XMPとOpenACCを組み合わせよう!

はじめに(2)

- アクセラレータ・クラスタの課題
 - 多階層並列性
 - ノード間 → XMP
 - (ノード内 → OpenMP)
 - デバイス間 → ?
 - アクセラレータ → OpenACC



- デバイス間直接通信(物理 or 論理)
 - Tightly Coupled Accelerator (TCA)
 - NVIDIA GPUDirect

目的

- アクセラレータ・クラスタのための新しいプログラミング言語XcalableACC (XACC)の提案
 - 多階層並列性
 - デバイス間直接通信
- Omni XcalableACCコンパイラの開発

➡ 高性能と高生産性の両方を実現

OpenACC

- オフロードモデルに基づくアクセラレータのためのプログラミングモデル
- 指示文ベース
- C/C++/Fortran
- Cray, CAPS, PGI (NVIDIA)

サンプルコード

```
→ Aをデバイス上に割付け
#pragma acc data copyin(A) -
                                       デバイスへオフロードする処理
  #pragma acc kernels
                                       (compute region)
     #pragma acc loop independant \
     for (int i = 0; i < N; ++i){
       A[i][0] = ...;
                                    * デバイス上でスレッド並列処理
                                    → Aをホストへコピー
 #pragma acc update host(A) --
```

OpenACCの特徴

- ・オフロードモデル
 - ホスト(CPU)が、データおよびワークをデバイスに「オフロード」する。
 - デバイスのあらゆる動作は、ホストにより (compute regionの外側で)指示される。
 - 実行キューに基づく非同期処理(cf. CUDAストリーム)
- マルチデバイスを意図した機能は、実質的に 存在しない。

XACCの基本方針(1)

• XACC = XMP + OpenACC + 新規拡張

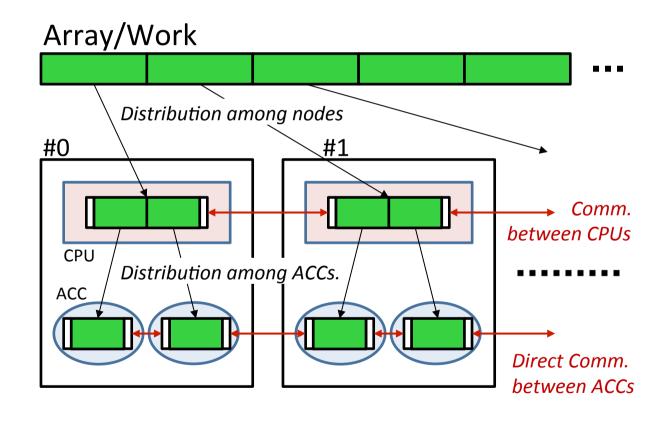
XMP指示文	ノード間の分散メモリ並列処理		
OpenACC指示文	デバイス上の並列処理		
XACC拡張	階層並列性、デバイス間直接通信		

cf. XMP + OpenMPの場合に比べ、XMP指示文とOpenACC指示文の関連は密であり、XACC処理系は各種指示文を解釈する必要がある。

XACCの基本方針(2)

- 原則として、XMP構文(ノード間並列)の内側にOpenACC指示文(アクセラレータ処理)を置く → 後で再検討
- 2種類の指示文(prefix)
 - (拡張された)XMP指示文: #pragma xmp
 - (拡張された)OpenACC指示文: #pragma acc
 - ※ デバイス間直接通信 → XMP拡張 階層並列性 → OpenACC拡張

XACCの実行モデル



XACC拡張

- XMP
 - acc節
- OpenACC
 - device指示文
 - on_device節
 - layout節
 - shadow節
 - barrier_device指示文

XMP通信指示文の拡張(acc節)

• acc節を伴うXMP通信指示文は、デバイス上 のデータを対象にする。

```
#pragma xmp reflect (a) acc
```

- ※ acc節がない場合は、処理系が選択する。
- acc節を伴うbarrier指示文は、デバイス間の バリア同期を行う。

#pragma xmp barrier acc

OpenACC拡張:device指示文

- 一次元、1-originの「デバイス配列」を宣言する → on_device節の引数
- "="節なしで宣言した場合、暗黙にデバイスの型と個数が決定される(実装依存)。
- "="節には、処理系依存のpredefinedなデバイス配列を指定できる。

```
#pragma acc device d0(*)
#pragma acc device d1(*) = nvidia(1:4)
```

OpenACC拡張: on_device節

- 各ACC指示文の動作の対象となるデバイス配列 を指定する。
 - data/enter data /exit data /declare/
 update
 - parallel/kernel/parallel loop/kernels
 loop
 - wait
 - barrier_device New!
- 特に、(非同期でない)wait指示文は全デバイスにおける処理が完了するまでブロックする。

OpenACC拡張: layout節とshadow節

- layout節
 - 対象:
 - declare
 - loop/parallel loop /kernels loop
 - 配列のインデックスおよびループのイタレーションの、 デバイス配列への分散方法を指定する。
 - − 分散形式はblockと"*"のみ。
- shadow節
 - 対象: declare
 - デバイス配列への分散に関するシャドウを指定する。

```
4ノード上に配列aを分散
XMPコード (マルチノード)
void foo(){
#pragma xmp nodes p(4)
#pragma xmp template t(0:99)
#pragma xmp distribute t(block) onto ∕p
 float a[100][100];
#pragma xmp align a[i][*] with t(i)
#pragma xmp shadow a[1:1][0]
#pragma xmp reflect (a)
                                                  ステンシル通信
#pragma xmp loop (i) on t(i) >
 for (int i = 0; i < 100; i++){
   for (int j = 0; j < 99; j++){
     a[i][j+1] = 1;
                                                外側ループをノード間で並列化
```

```
4ノード上に配列aを分散
XACCコード(マルチノード+マルチデバイス)
void foo(){
#pragma xmp nodes p(4)
                                             デバイス配列dを宣言
#pragma acc device d(*)
#pragma xmp template t(0:99)
#pragma xmp distribute t(block) onto ∕p
                                                  配列aをd上に分散
 float a[100][100];
#pragma xmp align a[i][*] with t(i)
#pragma xmp shadow a[1:1][0]
#pragma acc declare copy(a) layout([*][block]) shadow([0][1:1]) on device(d)
#pragma xmp reflect (a) acc
                                                ステンシル通信
#pragma xmp loop (i) on t(i) >
 for (int i = 0; i < 100; i++){
#pragma acc parallel loop layout(a[*][]+1]) on device(d)
   for (int j = 0; j < 99; j++){
     a[i][i+1] = 1;
                                              外側ループをノード間で並列化
                                            内側ループをデバイス間で並列化
```

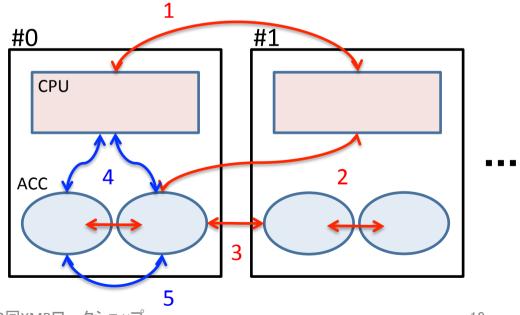
XACCコード(マルチデバイス)

```
void foo(){
                                             デバイス配列dを宣言
#pragma acc device d(*)
                                                   配列aをd上に分散
 float a[100][100];
#pragma acc declare copy(a) layout([*][block]) shadow([0][1:1]) on device(d)
#pragma xmp reflect (a) acc -
                                                 ステンシル通信
 for (int i = 0; i < 100; i++){
#pragma acc parallel loop layout(a[*][j+1]) on device(d)
   for (int j = 0; j < 99; j++){
     a[i][j+1] = 1;
                                             内側ループをデバイス間で並列化
```

同期モデル(検討中)

- ノード間
 - 1. ホスト-ホスト
 - 2. ホスト-デバイス
 - 3. デバイス-デバイス

- ノード内
 - 4. ホスト-デバイス
 - 5. デバイス-デバイス



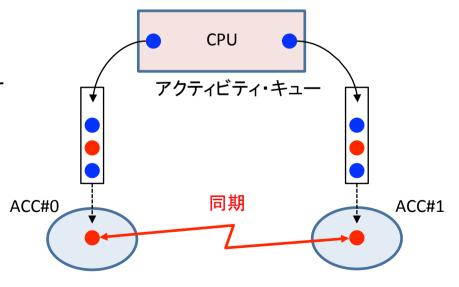
2014/10/24

第2回XMPワークショップ

同期モデル(検討中)

- デバイス間の「同期」とは?(3と5)
 - デバイスが非同期処理を実行する順序に関する 「制約」→ 特別な非同期処理(イベント)
 - ホストにより指定されるが、ホストは関与しない。

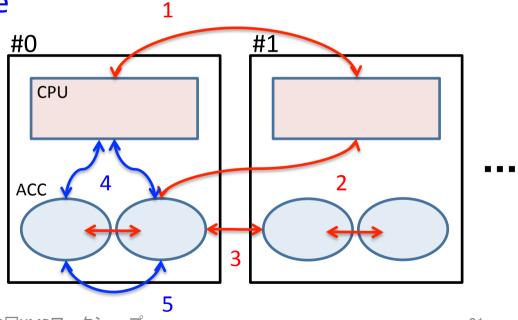
※ 同期処理の場合(4): ホストが処理を発行する順序に関する「制約」として実現。



同期モデル(検討中)

- 1. xmp barrier
- 2. 不要?
- 3. xmp barrier acc Newl
- 4. acc wait
- 5. acc barrier_device New

※ 3は5の機能を包含する。した がって、5は主にローカルビュー 並列が対象。



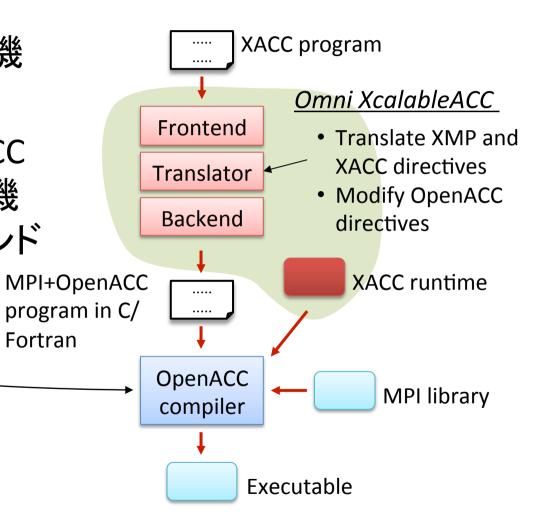
要検討

- XMP構文とACC構文のネストの順序
 - acc data構文の内側にXMP構文
 - compute regionの内側にxmp loop構文
 - compute regionの内側にXMP通信・同期<u>開始</u> 構文 → デバイスから通信または同期をキックし たい。
- syntactic sugar ?

```
#pragma xmp reflect_init (a)
#pragma acc kernels on_device(d)
  #pragma xmp loop (i) on t(i)
  for (int i = 0; i < 100; i++){
      #pragma acc loop
      for (int j = 0; j < 100; j++){
         a[i][j] = ...
   #pragma xmp reflect do (a)
   #pragma xmp loop (i) on t(i)
   for (int i = 0; i < 100; i++){
      #pragma acc loop
      for (int j = 0; j < 100; j++){
         b[i][j] = ...
```

Omni XcalableACC

- Omni XMPの「拡張機能」として開発中。
- Omni自身もOpenACC
 コンパイラとしての機能を持つ(バックエンドとして利用可能)。 MPI+C

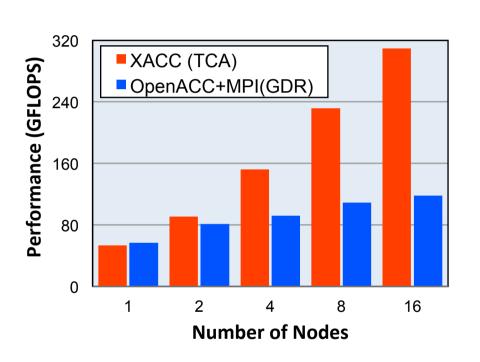


予備評価

• 姫野ベンチマークをXACCで実装

• HA-PACS/TCAで評価 ※ デバイス間の並列処理は 未実装 float p[MIMAX][MJMAX][MKMAX]; // XMP指示文を用いて分散配列の定義 #pragma xmp shadow p[1:1][1:1][0] 袖領域の定義 #pragma acc data copy(p) .. アクセラレータに分散配列を転送 #pragma xmp reflect (p) acc アクセラレータメモリの袖交換 #pragma xmp loop (k,j,i) on t(k,j,i)**-** ループの分散処理 #pragma acc parallel loop collapse(3) .. for(i=1 ; i<MIMAX ; ++i)</pre> for(j=1 ; j<MJMAX ; ++j){</pre> for(k=1; k < MKMAX; ++k){ S0 = p[i+1][i][k] * ...;

予備評価: 性能



- OpenACC+MVAPICH2-GDRと比較。
- サイズM(128x128x256)で、最大2.7倍の性能
- TCAの制約により、サイズを大きくすると差は小さくなる。

予備評価: 生產性

• 行数(source lines of codes)

	トータル	XMP	OpenACC	指示文以外
XACC	213	28	9	176
OpenACC + MPI	488	-	15	473

- XACCの行数はOpenACC + MPIの半分以下
 - : ループ文のインデックス計算や、ステンシル通信のための計算が不要
- ・グローバルビュー

まとめ

- アクセラレータ・クラスタ向けプログラミング言語XcalableACCを開発中。
- XACC = XMP + OpenACC + XACC拡張
- マルチデバイスとデバイス間直接通信をサポート。
- 予備評価により、高性能と高生産性を確認。